

令和3年度

公害苦情調査結果報告書

令和5年3月

宮城県環境生活部環境対策課

はじめに

この報告書は、公害紛争処理法(昭和 45 年法律第 108 号)第 49 条の2の規定により、公害等調整委員会事務局が実施した令和3年度公害苦情調査に基づき、令和3年4月1日から令和4年3月 31 日までの1年間において、県内の市町村及び県保健所の公害苦情相談窓口へ寄せられた公害に関する苦情の受付状況及び処理状況を取りまとめたものです。公害苦情相談窓口では、公害紛争処理法でいう公害(典型7公害)に関する苦情のほか、廃棄物の不法投棄など典型7公害以外の苦情も取り扱っているところもあり、これらの苦情についても併せて調査の対象としています。

なお、平成6年度に調査方法の変更、平成 16 年度及び平成 30 年度に調査項目の整理統合、令和元年度に分類項目の変更がありましたので、本報告書は過去の報告書と直接比較できない箇所があることに御留意ください。

目 次

1	令和3年度公害苦情調査結果の概要	1
2	公害苦情の各分類別新規受付状況	3
	(1)公害の種類別苦情受付件数	3
	イ 典型7公害	3
	ロ 典型7公害以外	5
	(2)県保健所及び市町村別公害苦情受付件数	6
	(3)発生源の用途地域別公害苦情受付件数	7
	(4)被害の種類別公害苦情受付件数	7
	(5)月別の公害苦情受付件数	8
3	公害苦情の処理状況	9
	(1)処理方法	9
	(2)処理に要した期間	10
	(3)行政上の措置	11
	(4)防止対策の実施状況	11
	(5)法令との関係	12

1 令和3年度公害苦情調査結果の概要

令和3年度、全国で受け付けた公害苦情件数は73,739件であり、前年度に比べ7,818件減少した。過去の推移をみると、平成15年度の100,323件をピークに減少傾向が続いていたが、令和元年度及び令和2年度は2年連続の増加となり、令和3年度は減少となった。

本県においては、令和3年度新たに601件の公害苦情を受け付けた。本県の公害苦情受付件数の推移をみると、平成11年度以降増加傾向にあったが、平成18年度を境に減少傾向となり、令和2年度及び令和3年度は2年連続の増加となった。

令和3年度に新規に受け付けた公害苦情のうち、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音、振動、地盤沈下及び悪臭のいわゆる典型7公害の公害苦情受付件数は540件で、全公害苦情受付件数の内89.9%を占めている。典型7公害の種類別にみると、騒音(低周波音を含む)に関する苦情が245件と最も多く、以下、悪臭179件、水質汚濁61件、大気汚染42件、振動10件、土壌汚染2件及び地盤沈下1件であった。

また、典型7公害以外の公害苦情受付件数は61件(前年度比6件増)で、令和3年度に新規に受け付けた全公害苦情件数の内10.1%となっており、そのうち廃棄物投棄に関する苦情は19件であった。

公害苦情を主な発生源別にみると、「会社・事業所」が336件(令和3年度に新規に受け付けた全公害苦情受付件数の内55.9%)、「個人」が183件(同30.4%)となっている。「会社・事業所」の内訳をみると「建設業」、「製造業」に対する苦情件数が多くなっている。また、主な発原因別にみると、「工事・建設作業」が106件(同17.6%)と最も多く、「産業用機械作動」が61件(同10.1%)と続いている。

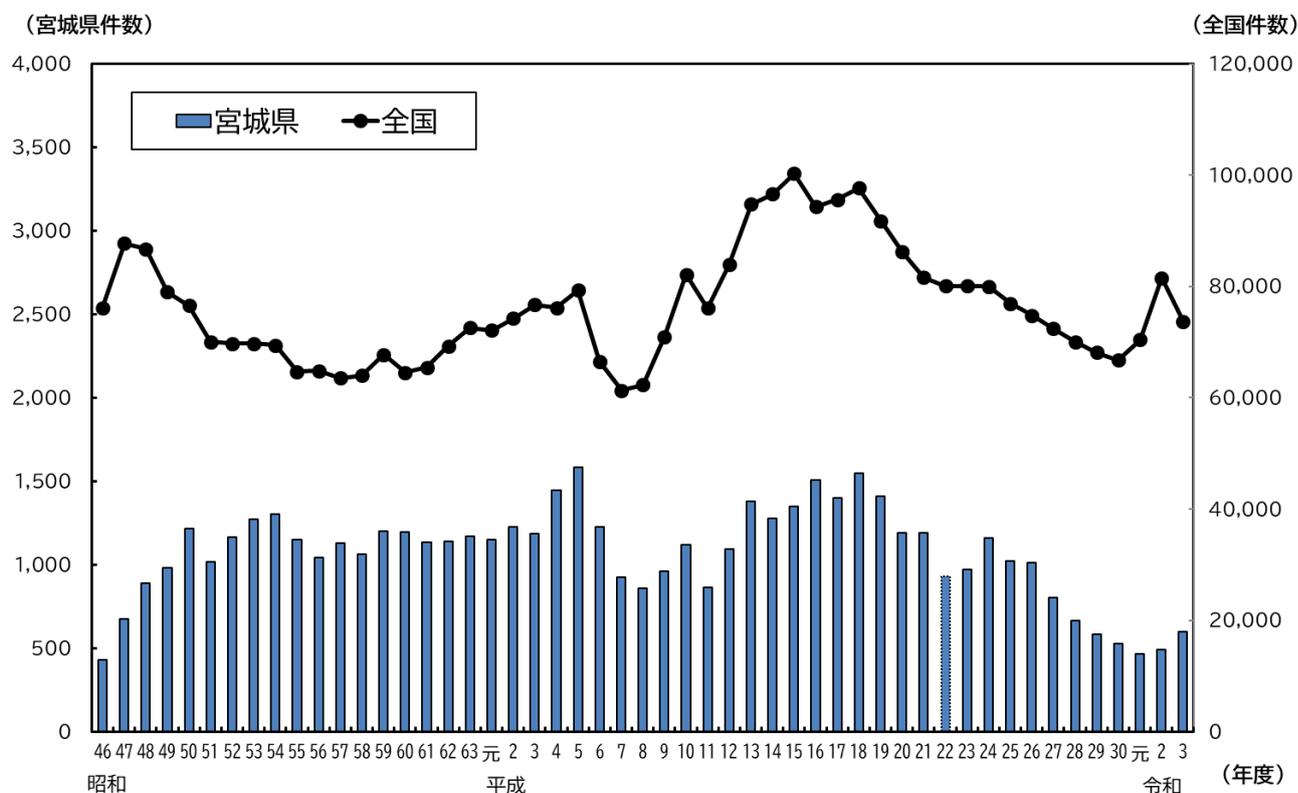


図1 公害苦情受付件数の推移

(注)平成22年度の宮城県件数には、東日本大震災により調査データが集計不能となった3市2町分のデータは含まれていない。

表1 公害の種類・年度別苦情受付件数(宮城県)

年度	総計	典型7公害									典型7公害以外計	廃棄物 投棄	その他
		大気 汚染	水質 汚濁	土壌 汚染	騒音	振動	地盤 沈下	悪臭					
平成	29	586 (100.0)	383 (65.4)	50 (8.5)	38 (6.5)	0 (0.0)	166 (28.3)	16 (2.7)	0 (0.0)	113 (19.3)	203 (34.6)	34 (5.8)	169 (28.8)
	30	529 (100.0)	402 (76.0)	64 (12.1)	46 (8.7)	1 (0.2)	177 (33.5)	11 (2.1)	0 (0.0)	103 (19.5)	127 (24.0)	32 (6.0)	95 (18.0)
令和	元	466 (100.0)	348 (74.7)	35 (7.5)	40 (8.6)	4 (0.9)	154 (33.0)	10 (2.1)	0 (0.0)	105 (22.5)	118 (25.3)	26 (5.6)	92 (19.7)
	2	490 (100.0)	435 (88.8)	58 (11.8)	34 (6.9)	0 (0.0)	211 (43.1)	10 (2.0)	0 (0.0)	122 (24.9)	55 (11.2)	31 (6.3)	24 (4.9)
	3	601 (100.0)	540 (89.9)	42 (7.0)	61 (10.1)	2 (0.3)	245 (40.8)	10 (1.7)	1 (0.2)	179 (29.8)	61 (10.1)	19 (3.2)	42 (7.0)

(注)「主な公害等の種類」で集計。「騒音」には「低周波音」を含む。

()内は構成比(%)

表2 公害等の主な発生源・発原因別公害苦情受付件数(宮城県)

区 分	総計	典型7公害									典型7公害以外計	廃棄物 投棄	その他
		大気 汚染	水質 汚濁	土壌 汚染	騒音	うち 低周波音	振動	地盤 沈下	悪臭				
主な発生源	601	540	42	61	2	245	5	10	1	179	61	19	42
会社・事業所	336	323	21	25	2	194	1	7	-	74	13	5	8
農業、林業	20	18	2	4	-	-	-	-	-	12	2	1	1
漁業	3	3	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鉱業、採石業、砂利採取業	2	2	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-
建設業	104	102	15	3	-	77	-	5	-	2	2	1	1
製造業	63	63	-	6	-	16	1	1	-	40	-	-	-
電気・ガス・熱供給・水道業	2	2	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-
情報通信業	2	2	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-
運輸業、郵便業	9	9	1	2	-	6	-	-	-	-	-	-	-
卸売、小売業	16	16	-	2	-	12	-	1	-	1	-	-	-
金融業、保険業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
不動産業、物品賃貸業	7	3	1	-	-	2	-	-	-	-	4	1	3
学術研究、専門・技術サービス	1	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
宿泊業、飲食サービス業	18	17	-	1	1	10	-	-	-	5	1	-	1
生活関連サービス業、娯楽業	7	6	-	-	-	6	-	-	-	-	1	1	-
教育、学習支援業	10	9	-	-	-	9	-	-	-	-	1	-	1
医療、福祉	6	6	-	1	-	3	-	-	-	2	-	-	-
複合サービス事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
サービス業	31	29	2	1	-	19	-	-	-	7	2	1	1
公務	28	28	-	1	1	26	-	-	-	-	-	-	-
分類不能の産業	7	7	-	-	-	2	-	-	-	5	-	-	-
個人	183	139	16	27	-	35	4	-	1	60	44	12	32
その他	14	13	1	-	-	10	-	1	-	1	1	-	1
不明	68	65	4	9	-	6	-	2	-	44	3	2	1
主な発原因	601	540	42	61	2	245	5	10	1	179	61	19	42
焼却(施設)	12	12	1	-	-	-	-	-	-	11	-	-	-
産業用機械作動	61	61	2	-	-	43	2	1	-	15	-	-	-
産業排水	26	26	-	14	-	-	-	-	-	12	-	-	-
流出・漏洩	36	36	-	30	1	-	-	-	-	5	-	-	-
工事・建設作業	106	105	14	-	-	85	-	5	-	1	1	1	-
飲食店営業	9	8	-	-	-	3	-	-	-	5	1	-	1
カラオケ	8	8	-	-	-	8	-	-	-	-	-	-	-
移動発生源(自動車運行)	9	9	-	5	1	3	-	-	-	-	-	-	-
移動発生源(鉄道運行)	2	2	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-
移動発生源(航空機運行)	22	22	-	-	-	22	-	-	-	-	-	-	-
廃棄物投棄	19	5	2	1	-	-	-	-	-	2	14	14	-
家庭生活(機器)	8	8	1	-	-	5	3	-	-	2	-	-	-
家庭生活(ペット)	5	4	-	-	-	4	-	-	-	-	1	-	1
家庭生活(その他)	45	41	3	5	-	14	-	-	-	19	4	2	2
焼却(野焼き)	36	35	12	-	-	-	-	-	-	23	1	-	1
自然系	32	2	-	-	-	1	-	-	1	-	30	-	30
その他	104	97	4	2	-	53	-	2	-	36	7	-	7
不明	61	59	3	4	-	2	-	2	-	48	2	2	-

(注)「主な公害等の種類」で集計。

2 公害苦情の各分類別新規受付状況

(1) 公害の種類別苦情受付件数

イ 典型7公害

典型7公害に関する公害苦情受付件数のうち、大気汚染、水質汚濁、騒音、悪臭に関する苦情件数を合わせると527件で、典型7公害に関する苦情件数の97.6%を占める。令和2年度と比較すると、悪臭(前年度比57件増)、騒音(同34件増)、水質汚濁(同27件増)、土壌汚染(同2件増)及び地盤沈下(同1件増)は増加し、大気汚染(同16件減)は減少し、振動は増減がなかった。

(イ) 大気汚染

大気汚染に関する公害苦情受付件数は42件であった。主な発生源別にみると「個人」が16件(大気汚染に関する公害苦情受付件数の内38.1%, 同2件減)と最も多く、以下「建設業」が15件(同35.7%, 前年度比1件減)、「農業、林業」が2件(同4.8%, 同1件減)、「サービス業」が2件(同4.8%, 同2件減)となった。また、主な発生原因別にみると「工事・建設作業」が14件(同33.3%, 同5件減)、「焼却(野焼き)」が12件(同28.6%, 同8件減)と最も多くなっている。

(ロ) 水質汚濁

水質汚濁に関する公害苦情受付件数は61件であった。主な発生源別にみると「個人」が27件(水質汚濁に関する公害苦情受付件数の内44.3%, 同23件増)と最も多く、次いで「製造業」が6件(同9.8%, 前年度比増減なし)、「農業、林業」が4件(同6.6%, 同増減なし)となっている。また、主な発生原因別にみると「流出・漏洩」が30件(同49.2%, 同14件増)と最も多く、以下「産業排水」が14件(同23.0%, 同5件増)となっている。

(ハ) 騒音

騒音に関する公害苦情受付件数は245件であった。主な発生源別にみると「建設業」が77件(騒音に関する公害苦情受付件数の内31.4%, 前年度比4件減)と最も多く、以下「個人」が35件(同14.3%, 同3件増)、「公務」が26件(同10.6%, 同26件増)となっている。また、主な発生原因別にみると「工事・建設作業」が85件(同34.7%, 同10件増)と最も多く、以下「産業用機械作動」が43件(同17.6%, 同13件増)、「移動発生源(航空機運行)」が22件(同9.0%, 同8件増)となっている。

(ニ) 悪臭

悪臭に関する公害苦情受付件数は179件であった。主な発生源別にみると「個人」が60件(悪臭に関する公害苦情受付件数の内33.5%, 前年度比32件増)と最も多く、以下「製造業」が40件(同22.3%, 同16件増)、「農業、林業」が12件(同6.7%, 同増減なし)となっている。また、主な発生原因別にみると「焼却(野焼き)」が23件(同12.8%, 同15件増)と最も多く、以下「家庭生活(その他)」が19件(同10.6%, 同1件増)、「産業用機械作動」が15件(同8.4%, 同10件増)となっている。

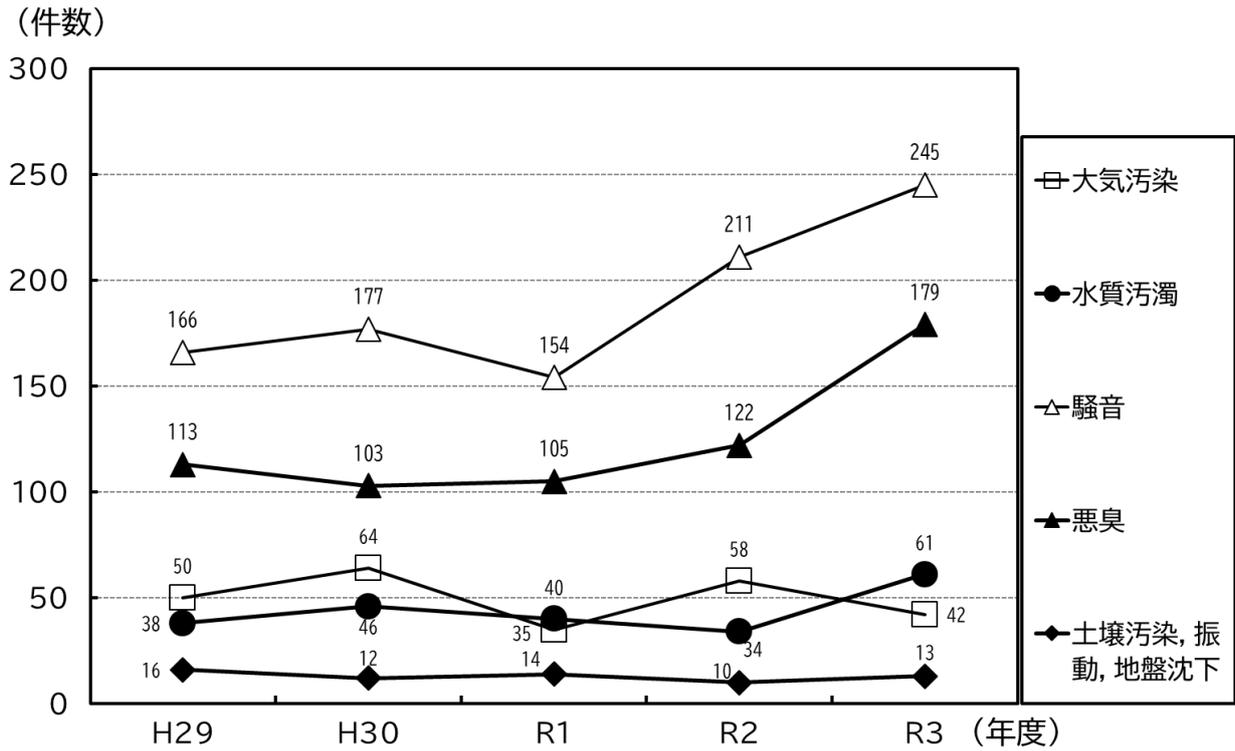


図2 典型7公害の種類別公害苦情受付件数の推移

(注)「主な公害等の種類」で集計。「騒音」には「低周波音」を含む。

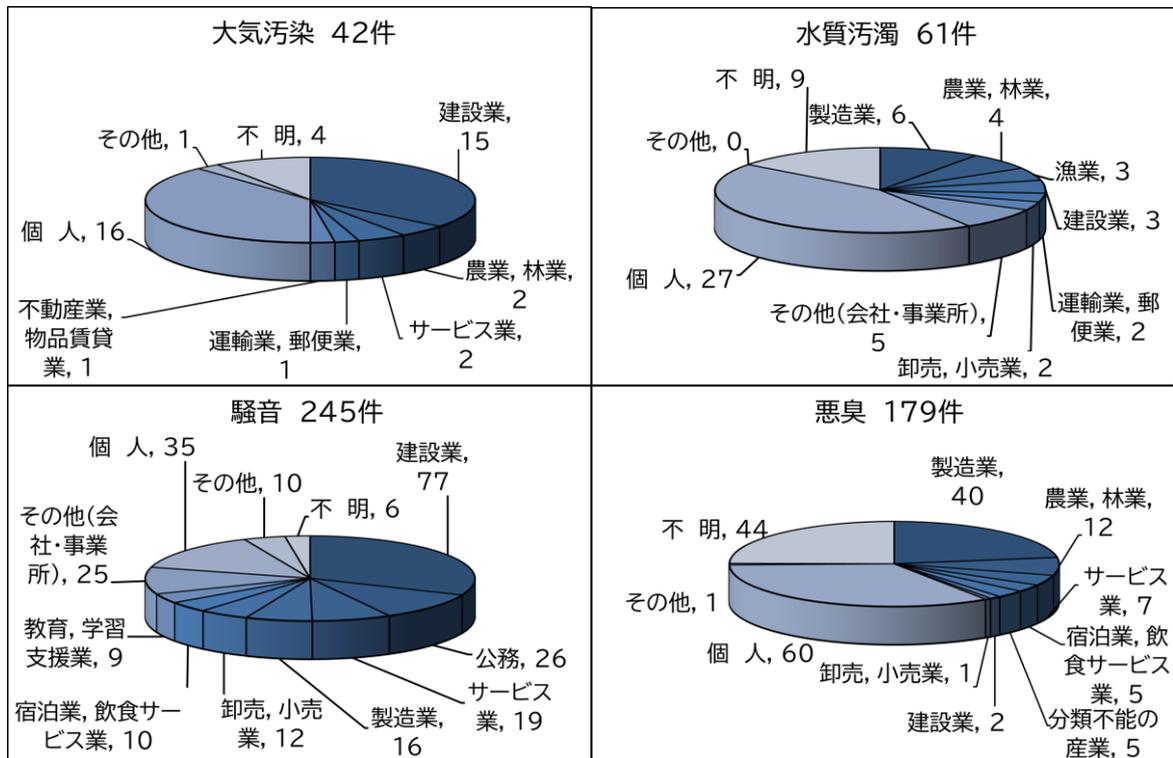


図3 大気汚染、水質汚濁、騒音及び悪臭の主な発生源

(注)「主な公害等の種類」で集計。「騒音」には「低周波音」を含む。

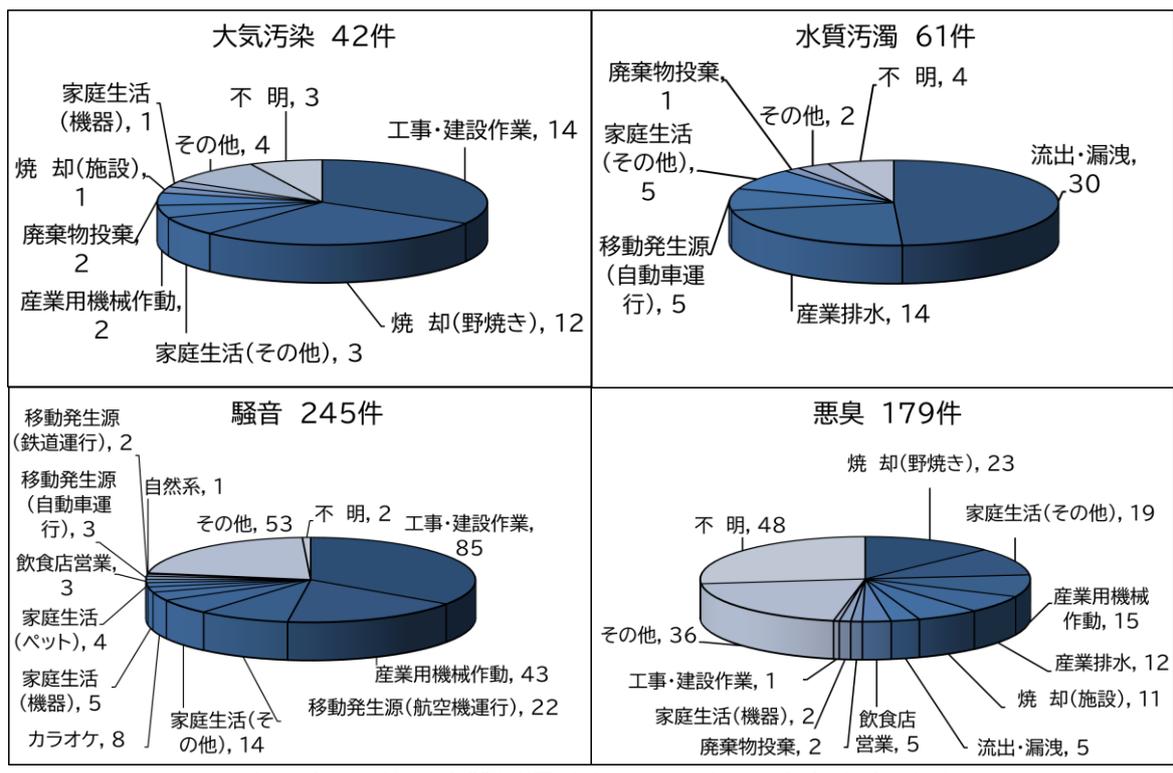


図4 大気汚染、水質汚濁、騒音及び悪臭の主な発生原因
 (注1)「主な公害等の種類」で集計。「騒音」には「低周波音」を含む。

ロ 典型7公害以外

典型7公害以外の公害苦情受付件数は前年度から6件増加し、61件となった。典型7公害以外の公害苦情受付件数のうち、廃棄物投棄が主な公害となっている苦情は19件であり、典型7公害以外の公害苦情受付件数の内31.1%を占めている。

他の公害に関連して発生する廃棄物投棄の件数を含めると、廃棄物投棄の総数は21件であった。投棄された廃棄物の内訳をみると、「生活系(主に家庭生活から発生した一般廃棄物)」が15件(全廃棄物投棄の71.4%)と過半数を占めている。

表3 投棄された廃棄物の種類

廃棄物投棄 計	生活系(注1) 農業系(注2) 建設系(注3) 産業系(注4)			
	生活系(注1)	農業系(注2)	建設系(注3)	産業系(注4)
21 (19)	15 (13)	0 (0)	2 (2)	4 (4)

(注1)生活系:主に家庭生活から発生した生ゴミ、空き缶、電機製品などの一般廃棄物の投棄をいう。
 (注2)農業系:主に農林漁業から発生する畜産関係のふん尿による産業廃棄物の投棄をいう。
 (注3)建設系:主に建設業から発生する建築廃材等による産業廃棄物の投棄をいう。
 (注4)産業系:主に産業の「飲食店、宿泊業」等の業務から排出されたごみ、製造・処理工程で発生した金属屑、廃油・廃酸等による産業廃棄物の投棄をいう。
 (注5)():「主な公害等の種類」が「廃棄物投棄」であるものを計上。

(2) 県保健所及び市町村別公害苦情受付件数

令和3年度に保健所及び市町村の公害苦情相談窓口へ寄せられた新規公害苦情受付件数は601件で、そのうち県保健所受付け分は40件、市部は509件、町村部は52件となっている。

表4 県保健所及び市町村別公害苦情受付件数

	総計	典型7公害									典型7公害以外	廃棄物投棄	その他
		大気汚染	水質汚濁	土壌汚染	騒音	うち低周波	振動	地盤沈下	悪臭				
県保健所	40	38	2	13	1	1	-	-	-	21	2	-	2
仙台市	190	190	13	-	-	122	1	8	-	47	-	-	-
石巻市	68	65	7	2	-	24	-	1	-	31	3	3	-
塩竈市	25	25	-	4	-	14	2	-	1	6	-	-	-
気仙沼市	24	24	3	10	1	1	-	-	-	9	-	-	-
名取市	69	68	2	15	-	23	-	1	-	27	1	-	1
角田市	14	14	-	5	-	5	-	-	-	4	-	-	-
多賀城市	52	38	1	-	-	27	1	-	-	10	14	8	6
岩沼市	16	16	7	1	-	7	-	-	-	1	-	-	-
登米市	37	26	5	6	-	8	1	-	-	7	11	6	5
栗原市	6	6	-	-	-	2	-	-	-	4	-	-	-
大崎市	3	3	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-
富谷市	5	5	-	-	-	3	-	-	-	2	-	-	-
市部計	509	480	38	43	1	237	5	10	1	150	29	17	12
蔵王町	10	8	2	2	-	2	-	-	-	2	2	-	2
大河原町	1	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
柴田町	28	-	-	-	-	-	-	-	-	-	28	2	26
丸森町	3	3	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-
亘理町	3	3	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-
大和町	4	4	-	-	-	3	-	-	-	1	-	-	-
涌谷町	2	2	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-
女川町	1	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
町村部計	52	22	2	5	-	7	-	-	-	8	30	2	28
合計	601	540	42	61	2	245	5	10	1	179	61	19	42

(注)「主な公害等の種類」で集計。苦情を受け付けた市町村のみ掲載。

(3)発生源の用途地域別公害苦情受付件数

典型7公害に関する公害苦情受付件数540件の内、396件(典型7公害に関する公害苦情受付件数の内 73.3%)が都市計画法による都市計画区域内で発生している。さらに、用途地域別にみると「住居地域」が198件(同36.7%)と最も多くなっている。典型7公害以外の公害苦情受付件数に関しても、住居地域で 41 件(典型7公害以外に関する公害苦情受付件数の67.2%)と最も多くなっている。

表5 発生源の用途地域別公害苦情受付件数

区分	典型7公害		典型7公害以外		合計	
	件数	構成比(%)	件数	構成比(%)	件数	構成比(%)
都市計画区域	396	73.3	48	78.7	444	73.9
住居地域 ^(注1)	198	36.7	41	67.2	239	39.8
近隣商業地域	24	4.4	2	3.3	26	4.3
商業地域	48	8.9	1	1.6	49	8.2
準工業地域	40	7.4	-	-	40	6.7
工業地域	28	5.2	1	1.6	29	4.8
工業専用地域	14	2.6	1	1.6	15	2.5
市街化調整地域	38	7.0	-	-	38	6.3
その他	6	1.1	2	3.3	8	1.3
都市計画区域以外の地域	109	20.2	13	21.3	122	20.3
不明	35	6.5	-	-	35	5.8
合計	540	100	61	100	601	100

(注1) 住居地域:第1種・第2種低層住居専用地域,第1種・第2種中高層住居専用地域,第1種・第2種住居地域及び準住居地域

(4)被害の種類別公害苦情受付件数

令和3年度に新規に受け付けた全公害苦情件数 601 件の内 462 件(全公害苦情受付件数の内 76.9%)が「感覚的・心理的」被害となっていた。

表6 被害の種類別公害苦情受付件数

被害の種類	総計	典型7公害計									典型7公害以外計	廃棄物投棄	その他
		大気汚染	水質汚濁	土壌汚染	騒音	うち低周波音	振動	地盤沈下	悪臭				
健康	34 (5.7%)	33	5	4	-	7	-	-	-	17	1	-	1
財産	26 (4.3%)	14	5	3	-	1	-	2	1	2	12	6	6
感覚的・心理的	462 (76.9%)	450	27	22	1	235	5	8	-	157	12	3	9
その他	79 (13.1%)	43	5	32	1	2	-	-	-	3	36	10	26
合計	601 (100%)	540	42	61	2	245	5	10	1	179	61	19	42

()内は構成比(%)

(注)「主な公害等の種類」で集計

(5)月別の公害苦情受付件数

例年、春から夏にかけて公害苦情受付件数が増加し、冬に少なくなる傾向がある。令和3年度も同様の傾向となっており、最も公害苦情受付件数が多かった6月、9月 10 月はいずれも72 件(令和3年度に新規に受け付けた全公害苦情受付件数の内 12.0%)であり、10 月を境に減少に転じ、最も公害苦情受付件数が少なかった3月は 25 件(同 4.2%)であった。

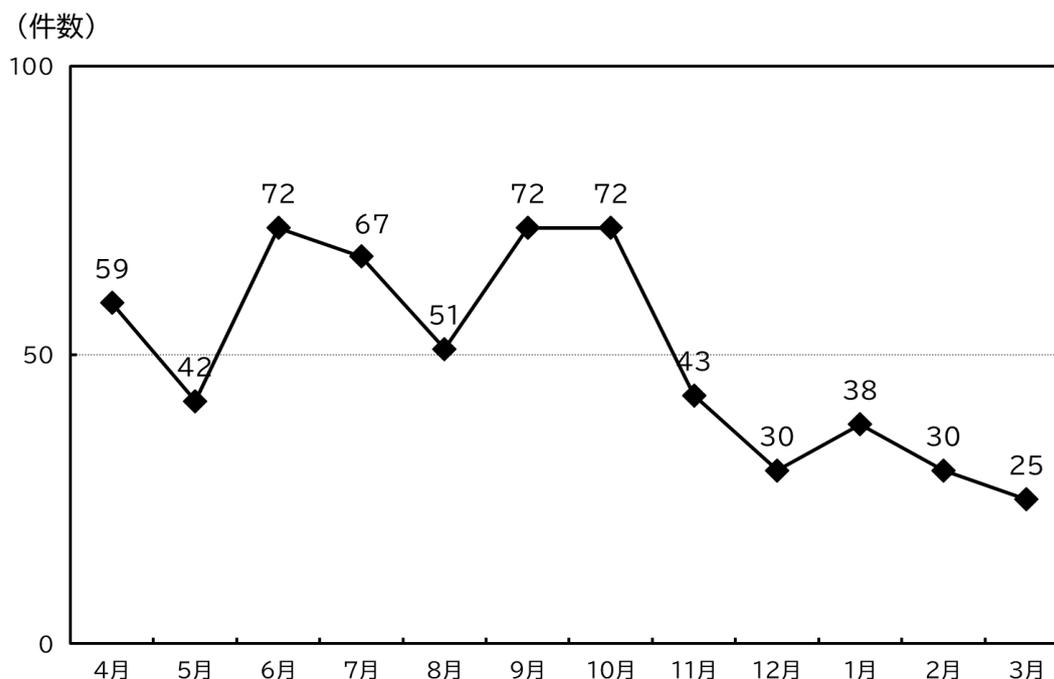


図5 月別の公害苦情受付件数

表7 月別の公害苦情受付件数

年	月	総計	典型7公害計									典型7公害以外計			
			大気汚染	水質汚濁	土壌汚染	騒音	うち 低周波音	振動	地盤沈下	悪臭	廃棄物 投棄	その他			
令和3	4月	59	56	6	4	-	32	-	1	-	13	3	1	2	
	5月	42	36	3	1	1	17	1	1	1	12	6	2	4	
	6月	72	68	4	7	-	36	1	-	-	21	4	1	3	
	7月	67	56	3	8	1	18	-	-	-	26	11	2	9	
	8月	51	41	-	4	-	21	-	2	-	14	10	1	9	
	9月	72	64	9	3	-	27	2	2	-	23	8	2	6	
	10月	72	70	6	7	-	31	1	-	-	26	2	1	1	
	11月	43	36	3	7	-	14	-	1	-	11	7	4	3	
	12月	30	28	1	6	-	10	-	1	-	10	2	1	1	
	令和4	1月	38	33	3	7	-	15	-	1	-	7	5	2	3
		2月	30	27	1	7	-	11	-	-	-	8	3	2	1
		3月	25	25	3	-	-	13	-	1	-	8	-	-	-
合計	601	540	42	61	2	245	5	10	1	179	61	19	42		

(注)「主な公害等の種類」で集計

3 公害苦情の処理状況

令和3年度の公害苦情総取扱件数は652件で、前年度よりも127件増加した。令和3年度の公害苦情総取扱件数の内訳は、令和3年度に新たに受け付けた苦情が601件、前年度から繰り越された苦情が51件となっている。

公害苦情の処理状況をみると、市町村及び県保健所が直接処理した苦情は510件、他の機関へ移送した苦情は32件、翌年度へ繰り越した苦情は56件となっている。

表8 公害苦情の処理状況の経年変化

年度		総計	直接処理	他へ移送(警察、国等の機関へ)	翌年度へ繰越	その他
平成	29	640	525	17	50	48
	30	573	474	24	37	38
令和	元	502	409	23	35	35
	2	525	397	21	51	56
	3	652	510	32	56	54

(注1)「直接処理」とは、加害行為又は被害の原因が消滅した、申立人が措置に納得した、措置後3か月で再申し立てなし、和解成立など、苦情が解消したと認められる状況に至るまで地方公共団体が措置を講じたことをいう。

(注2)「その他」には、原因又は加害行為をした者が不明のとき、申立人が地方公共団体の措置又は説明に納得しないが他に苦情を解決する方法がないとき、申立人が管轄区域外に転居したときなど直接処理できない場合をいう。

表9 公害苦情の処理状況(令和3年度)

	総計	直接処理	他へ移送(警察、国等の機関へ)	翌年度へ繰越	その他
公害苦情総取扱件数	652	510	32	56	54
うち令和3年度新規受付分	601	477	32	41	51
うち典型7公害の公害苦情	540	428	30	40	42
うち典型7公害以外の公害苦情	61	49	2	1	9

(注1)「直接処理」とは、加害行為又は被害の原因が消滅した、申立人が措置に納得した、措置後3か月で再申し立てなし、和解成立など、苦情が解消したと認められる状況に至るまで地方公共団体が措置を講じたことをいう。

(注2)「その他」には、原因又は加害行為をした者が不明のとき、申立人が地方公共団体の措置又は説明に納得しないが他に苦情を解決する方法がないとき、申立人が管轄区域外に転居したときなど直接処理できない場合をいう。

以下に、令和3年度に新たに受け付けた公害苦情のうち、市町村及び県保健所が直接処理した典型7公害の苦情428件の処理状況を示す。

(1) 処理方法

苦情の処理方法別にみると、「発生源側に対する行政指導が中心」が233件(直接処理した典型7公害の苦情の内54.4%)と最も多く、次いで「原因の調査が中心」が143件(同33.4%)、「当事者間の話し合いが中心」17件(同4.0%)となっている。

表10 苦情の処理方法

処理方法	典型 7公害計	大気 汚染	水質 汚濁	土壌 汚染	騒音	うち	振動	地盤 沈下	悪臭
						低周波音			
発生源側に対する 行政指導が中心	233 (54.4)	28	14	-	112	-	5	-	74
当事者間の話し合 いが中心	17 (4.0)	-	-	1	9	-	1	-	6
申立人に対する説 得が中心	15 (3.5)	1	1	-	8	-	-	-	5
原因の調査が中心	143 (33.4)	6	35	1	39	-	4	1	57
その他	20 (4.7)	-	7	-	8	-	-	-	5
合計	428 (100)	35	57	2	176	-	10	1	147

()内は構成比(%)

(注)「主な公害等の種類」で集計

(2)処理に要した期間

処理に要した期間は、「1週間以内」が237件(直接処理した典型7公害の苦情の内55.4%)と最も多かった。一方、「6か月以上1年以内」は128件(同29.9%)と処理に時間を要しており、この内過半数が騒音の苦情となっている。

表11 処理に要した期間

処理に要した期間	典型 7公害計	大気 汚染	水質 汚濁	土壌 汚染	騒音	うち	振動	地盤 沈下	悪臭
						低周波音			
1週間以内	237 (55.4)	22	51	2	71	-	4	1	86
1週間以上 1か月以内	19 (4.4)	-	1	-	12	-	1	-	5
1か月以上 3か月以内	22 (5.1)	3	1	-	7	-	-	-	11
3か月以上 6か月以内	22 (5.1)	1	2	-	15	-	1	-	3
6か月以上 1年以内	128 (29.9)	9	2	-	71	-	4	-	42
合計	428 (99.9)	35	57	2	176	-	10	1	147

()内は構成比(%)

(注1) 構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100とはならない。

(注2) 「主な公害等の種類」で集計

(3) 行政上の措置

行政上の措置別にみると、「なし」が 232 件(直接処理した典型7公害の苦情の内 54.2%)と最も多く、次いで「行政指導」が 189 件(同 44.2%)である。

表 12 行政上の措置

勧告・措置等	典型 7公害計	大気 汚染	水質 汚濁	土壌 汚染	騒音	うち		振動	地盤 沈下	悪臭
						低周波音				
改善勧告	7 (1.6)	2	-	-	2	-	-	-	-	3
改善命令	- (0.0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
行政指導	189 (44.2)	23	13	1	85	-	-	3	-	64
条例に基づく措置	- (0.0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
なし	232 (54.2)	10	44	1	89	-	-	7	1	80
合計	428 (100)	35	57	2	176	-	-	10	1	147

()内は構成比(%)

(注)「主な公害等の種類」で集計

(4) 防止対策の実施状況

防止対策の実施状況別にみると、「作業方法、使用方法の改善」が 181 件(直接処理した典型7公害の苦情の内 42.3%)と最も多い。

表 13 防止対策の実施状況

状況	典型 7公害計	大気 汚染	水質 汚濁	土壌 汚染	騒音	うち		振動	地盤 沈下	悪臭
						低周波音				
作業方法、使用方法の改善	181 (42.3)	22	19	-	84	-	-	1	-	55
その他の方法で対策を講じた	56 (13.1)	5	20	2	16	-	-	1	-	12
不明	102 (23.8)	6	1	-	53	-	-	2	-	40
防止対策は何も講じていない	89 (20.8)	2	17	-	23	-	-	6	1	40
合計	428 (100)	35	57	2	176	-	-	10	1	147

()内は構成比(%)

(注)「主な公害等の種類」で集計

(5)法令との関係

苦情の対象となった事業活動等について公害規制法令との関係を見ると、「法令違反」は 42 件(直接処理した典型7公害の苦情の内 9.8%),「法令に違反なし」は 206 件(同 48.1%)となっている。

表 14 公害規制法令との関係

法令との関係	典型 7公害計	大気 汚染	水質 汚濁	土壌 汚染	騒音	うち	振動	地盤 沈下	悪臭
						低周波音			
法令違反									
規制に関する違反	29	-	6	-	11	-	1	-	11
その他の違反	13	2	2	1	3	-	-	-	5
小計	42 (9.8)	2	8	1	14	-	1	-	16
違反なし	206 (48.1)	20	37	-	82	-	5	1	61
不明	180 (42.1)	13	12	1	80	-	4	-	70
合計	428 (100)	35	57	2	176	-	10	1	147

()内は構成比(%)

(注)「主な公害等の種類」で集計